

はい!

やくも町議会

第 78 号

令和 5 年 8 月

編集 / 議会広報広聴常任委員会

7月25日 議会報告会 開催!

たくさんのお声をいただきました!

はぴあ八雲(昼) 18人参加 はぴあ八雲(夜) 11人参加

くまいし館 8人参加 落部町民センター 9人参加

映像配信中! YouTube
「八雲町議会」で 🔍 検索



主な内容

	ページ
○一般会計補正予算	②
○5名の議員が町政を問う(一般質問)	④
○視察調査・議員研修	⑨
○議決・賛否一覧他(定例会・臨時会)	⑩
○常任委員会の活動(所管課報告)	⑫
○サーモン養殖部会の皆さん(耳をすまして)	⑭



補正の主な内容

低所得世帯支援給付金給付事業 9,015万4千円

物価高騰の影響が大きい住民税非課税世帯に対し、一世帯当たり3万円を給付。対象世帯数2,800世帯。国の地方創生臨時交付金を活用。

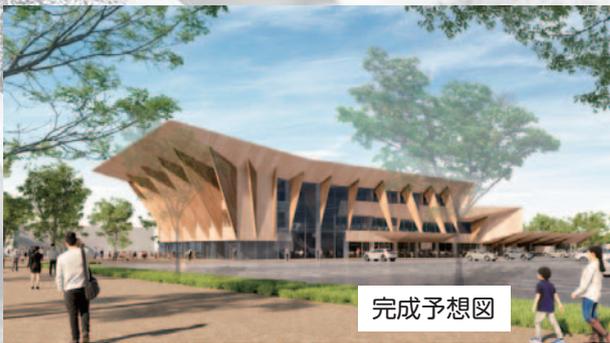
低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付事業 子育て世帯への給付金給付事業 1億1,451万7千円

物価高騰の影響を受ける低所得の子育て世帯を支援。児童一人当たり5万円の特別給付金を給付。対象児童は170人を見込む。

また町独自に、すべての子育て世帯を支援するため、18歳までの子供一人当たり5万円を給付。給付対象者は2,000人を見込み、国の地方創生臨時交付金を活用。



八雲町役場庁舎等新築工事实施設計業務委託料他 5,557万7千円



農地等購入費 1億3,882万3千円 林地等購入費 1,911万5千円

(株)太平洋農場より農地等約288ヘクタール、林地等約39ヘクタールを購入。町営育成牧場用地や、北海道新幹線新八雲駅周辺整備などに活用予定。

アイヌ文化財保存活用 業務委託料 5,596万3千円

鉛川レクリエーションセンター 老朽化対策事業補助金 1,372万2千円

令和5年 第2回定例会

一般会計補正予算

4億9489万円追加

(補正後の総額 164億5042万9千円)

第2回定例会は6月7日から6月9日までの3日間の会期で開かれ、補正予算、条例改正、工事請負契約の締結、財産取得など議案15件、専決処分などの承認2件、歳出予算の繰越の報告3件を審議し、いずれも原案どおり可決されました。

工事請負契約（4件）を締結

・町道咲来線道路舗装工事

契約金額 1億3,255万円
契約の相手方 ツバメ工業株式会社

・東野地区地域会館新築工事（建築主体）

契約金額 8,029万7,800円
契約の相手方 高橋・吉野特定建設工事共同企業体

・町道咲来線道路改良工事

契約金額 1億3,024万円
契約の相手方 株式会社河井工業

・熊石総合センター大規模改修工事(建築主体)

契約金額 1億1,572万円
契約の相手方 黒島・熊谷特定建設工事共同企業体

財産の取得

除雪ドーザ（11t級）1台 購入
3,685万円

新基準防火衣 35着 購入
1,498万8,490円

一般会計補正予算 反対討論

■反対討論（要点） 関口 正博 議員

鉛川レクリエーションセンター老朽化対策事業補助金に対し、反対の立場で討論を行います。
令和6年3月31日をもって、レクリエーションセンター賃貸借契約満了に伴う施設譲渡において、現状のままの無償譲渡を目指すべきものが理想と私自身は考えるところですが、3月定例会において、外部水道施設改修および浄水設備、温泉施設改修に関わる予算を認めたことは、この施設の持つ公益性と歴史的背景を、私自身を含め、議員皆様も考慮したうえでのことであると考えられるものであります。
しかし今回上程されている鉛川レクリエーションセンター老朽化対策事業補助金1,372万2千円の予算計上は、レクリエーションセンター解体と改築に関わる設計予算であるが、これは来年度に予算措置される解体工事、施設改修に対する補助金合わせて、概算2億2,500万円余りの予算計上へと続くものであり、外部工事等概算2億5千万円を合わせ、この施設に対し、総額4億8千万円余りにのぼる支出が、現状において妥当なものであるとは到底思えるものではありません。
また、施設改築に伴う補助金の算定基準は、平成21年に民間事業者に対し交付された1億円を基準とし、現状の世相を考慮したうえでの1.9倍、1億9千万円と算出したとのことであるが、今後、同様のケースにおいて1億9千万円という金額だけが先走り、この金額が、これからの八雲町の交渉事の公平性の基準となることは明白であり、補助金の算定基準についても、今まで以上の検証が必要であると考えます。
賃貸借契約の期限が迫る中、補助金額、補助金の算定方法も含め、今一度の検証と、議論をする機会をいただくことをお願い申し上げ、反対討論とさせていただきます。

■【考察】 三澤 公雄 議員

反対討論のあと、採決に付された結果は僅差の賛成7、反対6となりました。
これは反対討論の効果だと思えます！
総務経済常任委員会での質疑応答では、どんな角度からの質問にも、「補助金支出の枠組み理論」に則って、「立て板に水」の答弁を繰り返す担当課の姿勢を崩せずにいたと感じました。
この理論に抗う論理的思考を組み立てられずにいた議員たちに、『そうだ！論理よりも熱情だ！』と気づかせたことが、僅差での可決となったのだと思えます。
「多額すぎないか！」という感覚を大事にして訴えた関口議員の「熱」に感化され、「議論の場で積み上げたものがすべて」という議会審議の原点から軸足を外せない議員に「心の葛藤」を呼び起こし、「町民は理解するだろうか・・・」という原点に立ち帰らせた結果であったと思えます。
執行部は、町長という『ひとりが決断する』仕組みでしょう。一方、議会は議決権を行使し執行部の判断に是非をくだす機関です。『ひとりひとりが納得するまで合議して』集合知を導き出すという集団での決断…。この両者の違いを両輪として進める【まちづくり】が、より多くの町民に納得感を与えられるように『議会を進めていきます！』

一般質問

町政を問う!

※質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。華やかであるが「力量」が問われる。

Q

電気料金の値上げにどう対策するか

A

再生可能エネルギーの導入を推進し、地産地消を目指す

よこたきよし 議員
横田喜世志



問 北海道電力は平均23・2%値上げになり、さらに上がる様相がある。

熊石の平田内川では水力発電を建設しているが、以前「地域発電を」との質問に対し、町長は「条件を整えば」というような答弁であった。買う電気と作る電気との差が縮まっている今が考えどきではないか。

国の再生可能エネルギー事業支援施策の補助金を活用した「マイクログリッド」といわれる取り組みが各地で行われている。小規模

電力網を構築して、エネルギーの地産地消を八雲町で取り組むべきではないか。

また、災害拠点でもある役場新庁舎の建設計画に小規模電力網を取り入れる必要があると思うが、町長の考えを伺う。

町長

熊石平地区で建設されている「平田内川水力発電所」は、今後、発電所の建屋や、取水施設、水車などを建設する予定であり、令和6年6月の稼働を目指し、当初の計画どおり全量を売電する。

エネルギーの地産地消は、令和3年度に策定した「八雲町地域再生可能エネルギー導入戦略」で掲げているとおり、災害に強い町、経済の域内循環などに繋がる重要な取り組みとして位置づけている。



マイクログリッドなどの地域脱炭素事業の実現には、町民や事業者の理解・連携・協働が不可欠であることから、今年度に策定する「八雲町温暖化対策実行計画（区域施策編）」において、慎重に検討して理解を深め、地域資源を活用した再生可能エネルギー導入を推進し、地産地消を目指したい。

役場新庁舎については、土地の面積もあるため、太陽光などでエネルギーを使わないような庁舎を設計に入れていきたい。

Q 町が取り組むべき事業とは？

A 一次産業の創出だ！

あかい 赤井 議員
むつみ 睦美



町長

青年舎の目的である研修部門の拡大は進まず、牧場収益を町全体の農業振興のために活用することもできていないため、関係機関と連携しサポートを継続していく。

問

町長は将来の財政不安を減らすために、町が出資し、青年舎や木蓮、サーモン養殖をスタートさせた。この取り組みが生産者からの強い要望ではなく、町の呼びかけで始まったことに不安を感じる。

木蓮は、コロナの影響で計画どおり進んでいない。安定した財源確保や新たな事業展開を図ること、組織基盤の強化と自立のための体制づくりを構築することが課題。商工会と連携し、指導及び助言をしていく。

これらの事業は、当初の目的や計画に沿って順調に進んでいるのか。現状の課題に対し、どのように考えているのか。更に今後、きくらの栽培（熊石地域）、ワイナリー、ウイスキー等の取り組みも、どのような方法で進める予定なのか。

サーモン養殖は、昨年、卵からふ化させた幼魚は順調に育ち、現状の施設でどのくらいの幼魚を育成できるか試験を続け、種苗の生産拡大と施設の増設を進めている。海面養殖は、ひやま漁協熊石支所のサーモン養殖部会が来年の水揚げ以降の自立を目指し、精力的

に活動しているが、今年5月に水揚げしたサーモンの生残率が大幅に低下したため、原因究明と来年度に向けた対応策を考えている。

きくらは、初期投資はかかりすぎる感もあるが、企業の協力を得ながら、うまくいくと思つている。様々な業種の人が副業として取り組み、うまくできたら、生でも乾燥でも間違ひなく売れる。ウイスキーは、協力企業を募集している。

ワイナリーは、1万本程度から始めるので、それほどお金はかからずに行けると思う。やり方はここ2年で検討する。

ふるさと納税で町財政は良く

自治体を持つ第3セクターの成功の秘訣は、「基本構想・基本計画などのなかで、その位置づけが明確にされていること」、「地域住民、企業などから理解され、支援されていること」だそうです。（赤井）

青年舎については、将来を憂つ生産者の声が発端では？（三澤）

なつているので、議会の賛同を得られれば、やる気のある人にはどんどん支援していきたい。

Q 産業支援の強化を！

A 商工会と連携し、商工振興を推進

問

町内の小売業やサービス業では、コロナの影響、少子化や人口減少による購買力の低下、電気代値上げによるコストの増大、ネット販売の影響など、個人では解決できない大きな課題がある中、廃業という残念な結果にならないように、情報共有・情報提供等の支援が必要だと思つが、町長の考えを伺う。

町長

一次産業に比べ、商工関係はなかなか進まなかったと反省している。商工会、商工会理事、青年部と連携を取りながら商工の発展に努力したい。

Q 外国語表記の推進を！

A 新幹線開業に合わせて検討

Q 少子化対策について

A しつかりと研究し、取り組んでいく

くらち 倉地 きよこ 議員



問 現在、八雲町では子育てにかかる費用負担の軽減を図るため、給食費無料・医療費無料・保育費

不妊治療については、少子化対策の一環として、体外受精などの基本治療について医療保険が適用されることとなり、治療開始時における年齢制限や回数制限はあるが、保険が適用される前と比べると、不妊に悩む多くの方の支援に繋がっていると考えている。

無料などの取り組みを実施しているところだが、少子化に歯止めがかからず、令和2年度以降、年間の出生数は100人を割っている。子どもが生まれてからの支援の他に、少子化対策のひとつとして、妊娠・出産を望んでいる方への不妊治療の助成はできないか。

しかしながら、保険適用となっても、不妊治療費は高額となる場合もあるため、少子化対策として自己負担額を助成している自治体もある。子どもを産みたいと思っ

問 国は少子化対策の柱として、「働き方改革の推進」をあげている。男性育児休業取得率の政府目標を30%から50%と大幅に引き上げ、北海道も男性職員の育児促進目標を30%に引き上げるなど、育児推進に力を入れている。

町長 八雲町では、男性職員の育児休業取得促進について、どのような取り組みをされているのか。研修会等を実施し、職員全員の意識改革を図っていく考えはあるか。

八雲町においては、育児休業取得率の目標設定はしていないが、男性職員の育児休業取得促進の取り組みについては、出産時の各種手続きの際に、男性職員に対し育児休業制度等について説明し、取得意向確認をしている。休暇制度の周知についても、全職員がいつでも閲覧可能な状態である。意識改革についての研修には、育児休業を取得した男性職員の体験など、制度内容を理解を促したい。また、他の自治体の取り組みも研究していきたい。

議会これからの予定

- 《8月》 9日 第5回臨時会 総務経済常任委員会
- 17日 文教厚生常任委員会
- 《9月》 1日 議会運営委員会
- 6日～13日 第3回定例会 決算特別委員会 総務経済常任委員会 文教厚生常任委員会 広報広聴常任委員会 議会運営委員会

議会を傍聴してみませんか

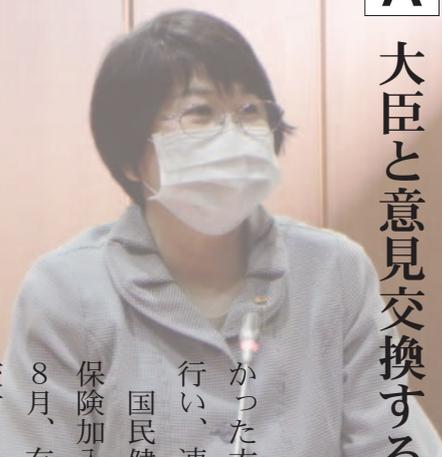
次の議会は、
令和5年第3回定例会
9月6日(水) 午前10時から
 開会の予定です。
 お気軽に足を運んでみてください。
 YouTubeで映像配信もします

Q

マイナンバーカードの誤登録は大問題

A 大臣と意見交換する予定だ

ともこ 議員
さとう 佐藤



行った方へは、再度説明、謝罪を行い、速やかに対応する。

国民健康保険、後期高齢者医療保険加入者については、令和6年8月、有効期間1年間の保険証が交付される。

問 マイナンバーカードの誤登録が大問題になっている。八雲町でもマイナポイントのミスが発生した。マイナ保険証の誤登録は命にも関わる。個人情報の保護も含めて、どう住民を守っていくのか考えを伺う。

町長 第三者にマイナポイントが付与されたことについて、関係者へ多大な迷惑をかけたこと、ならびに行政の信頼を損ねたことに對し、お詫びを申し上げる。
現在、国での対応策が検討されている。ポイント申請ができない

健康保険証の交付廃止は、実質、令和7年8月からとなる。マイナンバーカード、資格確認証のいずれも交付されない方が生じないよう適切に対応していきたい。

問 被害に合われた方の2万ポイントは、自治体が損害賠償する性質ではないと思う。どこに責任があると考えているか。
町長 国がポイント付与を検討中だと総務省から回答を得ている。現在は総務省からの通知を待っている状況である。

問

私は国に責任があると思っ
ている。マイナ保険証については
誤登録が7300件を超えており、
このまま行くと医療機関に大混乱
を生み出すことになる。

全国知事会では政府に対し、マ
イナカードの改善を求めている。

町村会でも要求を上げるべきで
はないか。

町長

全道の町村会で、大臣と
会う予定だ。私も役員に入ってい
るので、改善等について意見交換
しながら、現状を伝えていきたい。

Q 地域猫活動

A 北海道と連携を図る

問 函館や近隣町で飼い主のい
ない猫を保護し、譲渡に結びつけ
る活動が進んでいる。国も201
9年に動物愛護法を改正し、殺処
分ゼロをめざしている。

当町でも避妊手術の補助や譲渡
会を開きたい人の相談を受けるな
ど、地域猫活動の啓発に努めては
どうか。

町長

動物愛護管理法に基づく
業務内容で「犬猫の引き取り・譲
渡」及び「犬猫の繁殖制限」の所
管は北海道と位置づけられている
ことから、避妊の補助金について
は考えていない。

「地域猫活動」についても、所管
である北海道と連携を図ってい
きたい。

町長は、「譲渡会がある場合
は相談は受ける。」「渡島総合振
興局のホームページに掲載され
ている《飼い主さがしノート》
のPRも考えてみたい。」と発言
しています。猫好きだそうです。
(佐藤)

6月25日に八雲町で保護猫の譲渡会
がありました。(主催:ソラネコせた
な)9匹の「お試し」の申込みがあっ
たようです。



Q 女性活躍の推進は採用難にも有効だ！

A 職員採用に有効だという認識はあるが…

みさわ 三澤 議員
きみお 公雄 議員



に懇談会も企画している。職員の仕事しやすい環境づくりや、女性活躍政策に弱いので、皆さんの力を借りていきたい。

問 女性が進出でき、しっかりと

と登用されるシステム、もしくはは政策を意図的に作ることが職場全

体のWLB（ワークライフバランス）を整える早道と考える。これ

は「遅くまで灯の消えない職場環境の改善」ひいては職員の採用難

をも解消させ得る「政策」と考える。改革のスピードアップを！

町長 女性活躍の行動計画は

作っているし、女性が活躍できる職場環境を整える！ということとは

職員採用に有効だという認識はある。7月末には女性活躍をテーマ

Q 差別をなくす、

差別を許さない宣言をすべきだ！

A 気持ちはあるが…

まだ内部協議ができていない

問 学校ではLGBTQIA+

に対し十二分に配慮する用意も、児童・生徒への教育も、児童・生徒の認識も「国会をはるかに超えている」。

翻って「八雲町の社会」はどうか。追いついているのか。教育現場や児童・生徒を孤立させないために、社会の認識が追いつ

くためにも広い意味での差別をなくす、差別を許さない宣言をすべきではないだろうか。

また、ハード面ではどんどん素晴らしいことをやっている八雲町だから、なおさらソフト面を充実させ、発信すること、女性活躍と併せて「差別を許さない」宣言をすることは、ハード面だけではなく、文化的にも「面白いまち」として、八雲町のPRと、関係人口の増加に繋がるはずだ。

「国会をはるかに超えている」
LGBTQ理解増進法の審議での「不当な差別はあってはならない」など、「差別をしないひと」を増長させる余地を残すことにはかなり腐心している様を揶揄。(三澤)

町長の以前の答弁を思い出している「再答弁」を求める。

「再答弁を求める」
以前の一般質問で、外国人差別を念頭に「差別をしない宣言」を町長に迫ったら、町長は、もっと広い意味での「差別をしない宣言」を検討してくれ！と答弁した経緯があったため。(三澤)

町長 私、宣言はしたほうがいいと強く思っているが、内部協議が進んでいない。しかし、宣言に向かって協議をしていく。



ワイナリーの視察調査をしました

6月29日～30日、総務経済常任委員会で、八雲町における今後のワイナリー構想とワインの産地化を図るための参考とするために千歳ワイナリー（千歳市）、宝水ワイナリー（岩見沢市）、オチガビワイナリー（余市町）の各ワイナリーを視察調査してきました。

まず、原料のブドウ栽培においては「受粉時期である6月はもちろん、10月までの日照時間と温暖な気温が糖度を上げるために重要であり、一週間に8日曇るといわれる八雲町の冷涼な気候が最大の問題」と指摘を受けました。



また、「醸造タンク（120万円程度）やオーク樽（30万円程度）の価格から予想される全体の投資額」は、これまで町から説明を受けている金額を大きく超えるというところ。町はこれらの課題をどう考え、今後取り組んでいくつもりなのか。

今回の視察は、問題点をほつきりと認識できた有意義なものでした。

残念ながら、正直な感想として「八雲でワイナリーは難しい」と、専門家たちの話を聞けば聞くほど感じてしまいました。（大久保）

八雲町における測定結果

	有効積算気温(℃)	日照時間(時間)
年	4～10月	7～10月
令和元年	1202.2	526.4
令和2年	1246.2	479.5
令和3年	1215.0	554.1
令和4年	1240.6	594.4

異議あり！

「ピノ・ノアール」「ソービニオン・ブラン」が糖度20%に成熟するために必要な日照時間は550時間、積算温度は1230℃です。（高級醸造用ぶどうの本道における糖度からみた適応性と密植の効果…中央農試）八雲町において、令和4年は必要な数字をクリアしていますよ。（二澤）

北海道町村議会議員研修会に参加してきました

7月4日、札幌市において議員研修会が開催され、議長はじめ7名の議員が参加しました。

研修会では、ひよつご震災記念二十一世紀研究機構理事長の五百旗頭真氏きべまことによる「ウクライナ危機後の世界と日本」及び、政治ジャーナリストの田崎史郎氏たざきしろうによる「日本政治の舞台裏」というテーマで講演していただきました。

翌日は、八雲町と関わりの深い日本ハムファイターズのホーム球場であるエスコンフィールドの施設を見学しました。

平日の試合のない日にもかかわらず、多くの見学者が訪れ、経済効果があることを実感しました。



定例会・臨時会議件一覧

令和5年第2回定例会（令和5年6月7日～9日）			
議案第1号	八雲町公告式条例の一部を改正する条例	承認第2号	専決処分承認を求めることについて
議案第2号	八雲町税条例等の一部を改正する条例	報告第1号	令和4年度八雲町一般会計繰越明許費に係る歳出予算の繰越について
議案第3号	八雲町火災予防条例の一部を改正する条例	報告第2号	令和4年度八雲町下水道事業特別会計繰越明許費に係る歳出予算の繰越について
議案第4号	工事請負契約の締結について	報告第3号	令和4年度八雲町農業集落排水事業特別会計繰越明許費に係る歳出予算の繰越について
議案第5号	工事請負契約の締結について	発議第1号	2023年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
議案第6号	工事請負契約の締結について	発議第2号	薬剤耐性菌感染症の蔓延防止への取り組み体制の強化を求める意見書
議案第7号	工事請負契約の締結について	発議第3号	国立病院の機能強化を求める意見書
議案第8号	財産の取得について	発議第4号	2024年度地方財政の充実・強化を求める意見書
議案第9号	財産の取得について	発議第5号	特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める意見書
議案第10号	損害賠償額の決定について	発議第6号	核兵器禁止条約への参加・署名・批准を行うことを求める意見書
議案第11号	損害賠償額の決定について	発議第7号	教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現、義務教育費国庫負担制度堅持の意見書
議案第12号	辺地に係る総合整備計画の変更について	発議第8号	生物多様性の保全・ネイチャーポジティブの対策の強化を求める意見書
議案第13号	八雲町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について	発議第9号	道教委「これからの高校づくりに関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書
議案第14号	令和5年度八雲町一般会計補正予算（第3号）	文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査申出について	
議案第15号	令和5年度八雲町下水道事業会計補正予算（第1号）	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について	
承認第1号	専決処分承認を求めることについて	議員派遣の件	
令和5年第4回臨時会（令和5年7月12日）			
議案第1号	八雲町一般職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例	議案第3号	財産の取得について
議案第2号	財産の取得について		



異議あり!

第2回定例会 賛否一覧 (反対のあった議案を掲載)

賛成 ○ 反対 ×

議案名	採決結果	赤井陸美	佐藤智子	横田喜世志	大久保建一	関口正博	宮本雅晴	倉地清子	三澤公雄	牧野仁	安藤辰行	斎藤實	能登谷正人	黒島竹満	千葉隆
議案第14号 令和5年度八雲町一般会計補正予算(第3号)	可決	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	
発議第1号 2023年度北海道最低賃金改正等に関する意見書	可決	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	○	○	
発議第3号 国立病院の機能強化を求める意見書	否決	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
発議第6号 核兵器禁止条約への参加・署名・批准を行うことを求める意見書	否決	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	

※千葉隆議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

7月25日に議会報告会を開催しました!

会場 はぴあ八雲(昼) 18人参加

会場 はぴあ八雲(夜) 11人参加

会場 くまいし館 8人参加

会場 落部町民センター 9人参加

開かれた議会をめざして

～皆さんの声を聞かせてください～

- ・ 少子化と八雲の未来について
- ・ 八雲町議会議員のなり手について
- ・ その他(役場庁舎建設事業など)

詳細は11月号に掲載予定!



議会のうごき

《5月》

15日 全員協議会
総務経済常任委員会
18日 文教厚生常任委員会
30日 総務経済常任委員会

《6月》

2日 議会運営委員会
7日～9日 第2回定例会
文教厚生常任委員会
全員協議会
総務経済常任委員会
広報広聴常任委員会
議会運営委員会

13日 文教厚生常任委員会
議会運営委員会

29～30日 総務経済常任委員会視察調査

《7月》

10日 広報広聴常任委員会
12日 第4回臨時会
全員協議会
総務経済常任委員会
20日 文教厚生常任委員会
広報広聴常任委員会
25日 議会報告会

常任委員会 の活動

令和5年5月から令和5年7月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

●アイヌ文化財保存活用事業について（社会教育課）

国からの交付金で、八雲町のアイヌ文化財を保護・活用し、アイヌ文化を学ぶ機会を広く提供するため、ウェブページの作成、石碑2件の保護、説明看板8件、鳥瞰図3件の設置、リーフレットの作成等を行います。それらの経費は5596万3千円。

●国保病院建替事業基本設計業務について（熊石国保病院）

熊石国保病院 基本設計業務

延床面積	3,330.33㎡
構造規模	地上2階建てRC造
病床数	計 30床
駐車場台数	来院者用：63台 職員用：73台 業務用：4台 その他：2台
概算工事費	22億1,600万円

●令和4年度決算について（総合病院・熊石国保病院）

八雲総合病院 令和4年度決算

	令和4年度	令和3年度
収益総計	57億	60億
A	3,080万1千円	2,345万8千円
費用総計	52億	53億
B	9,200万3千円	1,798万1千円
差引収支	4億	7億
A - B	3,879万8千円	547万7千円
内部留保資金	20億	14億
	5,271万6千円	4,349万2千円

熊石国保病院 令和4年度決算

	令和4年度	令和3年度
収益総計	8億	9億
A	7,983万3千円	777万1千円
費用総計	8億	8億
B	7,658万2千円	8,244万7千円
差引収支		
A - B	325万1千円	2,532万4千円
内部留保資金	2億	2億
	8,293万9千円	6,871万3千円

●学童保育所のエアコン設置について（住民生活課）

わんぱくクラブ、さかえっ子クラブに各2台のエアコンを設置します。事業経費は、放課後児童健全育成事業予算内の補助金から備品購入費へ予算流用し、当該予算を確保します。（7月3日設置済）

請願書の付託を受けました

八雲町文化団体連合会より「文化ホール建設請願書」が提出され、文教厚生常任委員会が付託を受けました。

文化団体連合会と懇談を行なうなど、慎重に審査した結果、採択すべきものと決定し、令和5年7月12日開催の第4回臨時会において採択となりました。



イメージです

完成イメージ図



●鉛川レクリエーションセンター (温泉施設)の譲渡及び町の改修 工事に伴う補償について(商工観 光党政課)

補助、補償をする理由

鉛川観光施設は、観光産業の柱として町営で開発し運営して、住民の福祉向上のために利する目的で行ってきた。

運営が民間になってからも町内外の知名度アップや観光客との繋がりは、観光振興や活性化に貢献している施設である。

八雲町の観光資源のひとつとして、これからも長期にわたって継続してほしい貴重な観光施設であると位置づけているので、「譲渡」にあたっては(民間事業者が行う老朽化対策であるが)補助金を交付する方針とした。

補助対象

老朽化対策としての解体工事、改築工事に対し補助する。

改修工事期間中の休業への補償

今回のケースは、地方公共団体の適法な行政活動により生ずる損失であり、補償の対象となることから、水と温泉が供給されない工事期間に限り、固定的経費(営業活動に係る必要不可欠な経費)を対象に休業補償を行う。

【考察】

とても難しい問題だ……。町直営の赤字体質を民間移行での体質改善を期待した時代。観光振興を担う役割を期待しての「小牧荘運営費応援」の時代。「小牧荘廃止」後の水源・温泉源の指定管理者への支援時代。背景は変わっても八雲町にとって「支援し続ける枠組み」に変わりはない。コロナ禍という大波を受けた直後ではあるが、今後水やお湯周辺の改修名目で「支援し続ける仕組み」から「決別する」判断をしたようだ。

これまでの「長い歴史」を認識している町民(議員)と、それを知らない町民(議員)では、理解

度も異なるだろう。

「英断」となるか「愚断」となるのか。議会議員は占い師でもなければ評論家でもない。歴史の審判も受ける、町政を担う「当事者」としての判断」が求められている。(三澤)

●落部漁業協同組合事務所整備支援について(水産課)

支援の考え方

落部の中心市街地は漁業を中心にまちづくりが行われてきた。その中核をなす漁協事務所の整備にあたり、近い将来の公共施設の縮小を考えると、新しい漁協事務所が地域住民の集う中核施設として利用されるならば支援に値すると考えた。

地域コミュニティとして、町内会、PTA活動、年金受給者の会などの利用、地域の小中学校の課外学習の場としての利用、水産加工品、農産物の直売所としての利用、漁業関係者、地域住民の避難施設としての利用も考え、2階建てではあるが、エレベーターを設

置して高齢者等の利用に配慮をする。また、2階には災害時の非常用電源として発電機を設置し、ほぼ高さの等しい町道の高台へ移動できる「連絡通路」を設置する。

【委員会の意見】

「コミュニティ活動が単なる漁協組合員への「場の提供」で終わるのか。地域会館の集約を見据え、漁協と話し合いの場を持ちたい。

●令和4年度ふるさと応援寄附金の実績について(政策推進課)

件数 9万1173件

(前年比36・8%減)

金額 18億76万3千円

(前年比28・6%減)

【考察】

令和4年度は件数、金額ともに減少している。背景には、返礼品がイクラ、カニ頼みの構造が変わっていないことが挙げられる。日ハム商品はあるが、新商品の開発が待たれるところである。(三澤)

耳をすまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

熊石サーモン養殖部会 の皆さんです！

Q 熊石の漁業の状況は？

- ・以前はスケソウやサケ・イカ・タコが獲れ、多い時は150人位の漁師がいたが、今は約30人しかいない。
- ・スルメイカは6月1日から解禁となっているが、今はさっぱり獲れない。タコも3年位前から全くダメ。
- ・ヤリイカ漁のために、九州や山口県、石川県に出かけている漁師もいる。
- ・燃料はもちろん、発砲スチロール等の資材もすべて値上がりし、漁に出かけると赤字になってしまう。

Q サーモン養殖の手ごたえはどうか？

- ・冬期間は収入がない時期なので、サーモン養殖の仕事があつて助かっている。
- ・海の魚を獲るのが仕事で、育てる漁業は本州のほの話だと思っていたが、いざ自分たちが取り組んでみると、思った以上に順調で、冬期間はこれで飯が食えると感じている。
- ・他の町から「八雲は、町が養殖に力を入れていてうらやましい」と言われている。
- ・ある程度の量をこなさないと収入に繋がらない。
- ・餌やりは、決まった人たちが半年間、休みなく毎日（朝・夕）船を出しているの、この人たちができなくなったら、誰がやることになるのか難しい。

Q 今回、生残率が低かったと聞きましたか？

- ・4年目の今年が一番成長が悪く、へい死の数も多かった。
- ・水温等の調査もしてもらったが、特に異常はなく、原因は不明。2月に最も多く死んでいた。
- ・海の様子はいつもと変わらない。水温の異常もないことを考えると、稚魚が弱かったのか等も考えてみたが、はっきりとした原因は調査してもわからない。



Q 今後のサーモン養殖についてのお考えは？

- ・メンバーは10人いるが、従事しているのは3人だけなので、これ以上、生簀を増やすことは難しい。

Q 熊石特産のアワビと一緒に取り組むことは？

- ・アワビの養殖部会も10人くらいで頑張っているけど、今は4万個のアワビのエサやりを2人でやっている。3万個～4万個のアワビの生産では人件費も出てこない。
- ・今後の話なので決まてはいないが、洋上風力が実現し、その点検等で収入に繋がれば、サーモンと両方で何とか生活ができると思う。
- ・自然相手、生き物相手なので、その変化の見極めが難しい。考えたくはないが、全滅ということもあり得るので、しっかり取り組みたい。

・・・取材を終えて・・・

一日も早く日本海に昔の賑わいが復活してほしいと、心から思いました。



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

オオズワイガニの異常発生が、ただでさえコロナ禍により多大な影響を受けた管内刺し網漁家の経営をさらに追いつめていた。1980年代にも同様の事例がみられたが、当時は2年ほどで収束したという。即売会などで、オオズワイガニを安価で提供している様子がマスコミ等で連日報道されている。安価なうちに消費者にオオズワイガニを提供し、味を知ってもらうなど、新たな販路を開拓するなど、「ピンチをチャンスに」という試み自体は漁業者を一時的に勇気づけるものでもあるかもしれない。しかし、過去のようには短期間で資源が枯渇するなどの可能性があるのであれば、それが本当に水産業の持続可能性を探る試みといえるのであろうか。

国の指導が、過去から得られた教訓や海外水産先進国に学ぶとすると姿勢をとらず、行き当たりばったりの施策の繰り返しであるならば、命をかけ海に出る漁業者はあまりにも不幸であり、漁業を指す若者などいなくなってしまうと感じる。

議会広報広聴常任委員会
副委員長 関口 正博